

YAMAKADO NEWSLETTER

NO.101

2008/04/15

山門水源の森を次の
世代に引き継ぐ会

ユキバツバキ群落の中で見つけたユキツバキ (08/04/09)

芽吹きシーズンは、1年中で生物界の変化が一番激しい時である。1日で舞台装置がガラッと変わってしまうことも少なくない。毎日とはいかないまでも、1週間に1ペースでこの変化を楽しみたいシーズンです。今森で見ごろとなってきたユキバツバキの群落の中に1株ユキツバキが見つかりました。ユキバツバキの花の色にはいろいろなものがあることは既号で書きましたが、ユキバツバキとユキツバキでは花の形がかなり違うので注意すると見つけることができます。

今見
ごろと
なった



分布を広げるトクワカソウ (08/04/09)

トクワカソウは、3年前からの保全作業の効果が上がって、その分布範囲が拡大し見応えがあります。お訪ねの折は群落内へ立ち入らないようお願いします。

雪解けからしばらくの間は、コース以外の尾根筋や沢沿いの調査に最適です。特に沢沿いは積雪期の動物の移動によく使われているので、サプライズに出会うチャンスも多くなります。今回は、イノシシの事故死の現場に遭遇しました。右の画像の矢印部分(枯木の枝がY状になった部分)に後ろ足を挟み脱出出来ず遺体となったイノシシの骨格です。未だ多少肉片も付いており採取は後日にと考えていますが、完全骨格標本になりそうです。自然界の動物にも予期せぬ事故が待ち受けていることを見せつけられました。この遺体の肉片を喰っている動物にも遭遇したいものです。4月6日には、北部湿原でカモシカ2頭が訪問者と会員によって確認されました。



事故死したイノシシの骨格 (08/04/09)



ツクバネソウの増えた株 (08/04/09)



ツクバネソウ (07/05/22)

年々保全作業の効果が出てくるのは、保全作業に参加した者にとっては何よりの力になっています。一昨年ササ刈りを実施した「四季の森」で、昨年ツクバネソウが見つかったが、今年はその



湿原の眺望確保のための除伐作業 (08/04/06)



湿原の眺望が出来るようになった高台 (08/04/09)

場所でも多くの発芽が確認されました。5月の開花が楽しみです。保全作業によって各種生物が再生してくるのは楽しみでもあるのだが、保全作業の種類の多さと対象面積が広いのが大変である。現在進行中のものには、北部湿原復元作業・観察コースの階段補修・湿原の眺望を確保するための除伐作業・ヒノキ植林地の枝打ち後の落枝整理等々数え上げればきりがない。がいずれの保全作業も欠かせない。このうち観察コースの補修作業は、現在「ブナの森」



補修した階段 (08/03/30)

コースのピーク周辺で行っている。4月の保全作業日もこの作業の続行である。多くの会員の協力を期待しています。眺望確保のための除伐作業は、高台から湿原を眺めるためのもので、湿原の成因をはじめ全体像を把握する地点として、湿原へ降りる直前の高台から下の斜面（断層崖）で行った。除伐を基本にしているので、左の画像のように林間から湿原を眺望することとなります。葉が茂るようになると眺望が悪くなるのだが、残っている樹木の多くはコナラであるため、晩秋に更に除伐して椎茸菌を打ち込むことも考えています。

今年も南部湿原と牧場の間のヒノキの植林地（「森」の範囲外）で枝打ちが行われました。事前に事後の枝の始末を業者に、下の植物等を被わないようにと申し出をして頂いたため、昨年ほどのことは無かったものの



枝打ち直後の観察コースの様子 (08/04/02)



除去作業実施後の観察コース (08/04/09)

やはり除去作業を実施しないと、ササユリ等に大きな影響が出るので除去作業を実施しました。枝打ちと落枝整理の結果、観察コースが非常に明るくなったと同時に、林間から牧場方向の眺望も効くようになりました。「やまかど・森の楽舎」の付属湿地では、ミツガシワの花芽も随分成長し 20日前後には開花しそうです。